

基本設計平面図（案）に対する補足コメント

1. 普通教室については、以下の考え方に基づいて配置しました。

4・3・2制のまとまりを大切にし、教室配置を見直しました。日当たりや風通し、接地性に配慮し、校舎1階西側部分には1～4年生を配置しました。4年生までの昇降口は教室前に個別に配置し、土間方式（手洗い付）とすることでグラウンドへのアプローチの利便性、及び有事の避難のしやすさに配慮しました。室内のワークスペースはグループでの学習や休み時間の遊び場に利用できる畳の小上がり等アルコープ（※1）としての活用が可能な計画としました。

校舎2階西側部分には5～7年生を配置しました。落ち着いた学習環境をつくりながら、学校図書館に隣接させることで、教室に隣接したワークスペースを含め、少人数学習や習熟度別学習での図書館活用のしやすさ等に配慮しています。（ワークスペースの設えは継続検討中です）

8・9年生は教科センター方式を採用します。国語・数学の教科教室をホームルーム（HR）とし、生徒の生活拠点となるホームベース（HB）をHRに近接させることで、生徒同士のコミュニケーションの促進、帰属意識の醸成をめざしました。HR内には教員コーナーを設けることで、生徒が教員に気軽に相談しやすい環境をつくります。ワークスペース（WS）は教科の展示・掲示を促進する情報発信・共有の場にしたいと考えています。

なお、配置された家具等はスケール感を把握するために配置したもので、以降詳細検討の予定です。

※1 アルコープとは・・・壁面の一部をくぼませて作られたような小空間を指します。

2. 学校図書館については、以下の考え方に基づいて配置しました。

L字型の結節点となる校舎の中央部、及び動線の要に学校図書館を配置することで、本やメディアに気軽に触れられる学習環境づくりをめざしました。1階は歩きながら興味のある本を探したり、新しい本や世界に出会う場所。円弧状の小さな段々のコーナーは読み聞かせをしたり、寝転がって本を読んだりリラックスできる読書空間をめざしました。

2階は学習深度に合わせた本選びや、ゆっくりじっくり読み方に合わせて居場所を選べる図書空間。書架廻りの小さな閲覧スペースや眺望のいいカウンタースペース等のオープンな場所だけではなく、書架に囲まれ落ち着いた閲覧スペース（探究学習及び研修スペース）も設けました。その他、各教室前には教科や学年に合わせた書架を配置し、本を気軽に手にとれる『学校まるごと図書館』をめざしました。

3. 職員室と保健室については、以下の考え方に基づいて配置しました。

執務機能の中心となる職員室は校舎南側に配置し、管理ゾーンとしてのまとまりを大切にしながら落ち着いた執務環境をめざしました。休憩スペースやサロンを併設することで、業務の合間や放課後にリフレッシュできる環境をつくり、心身の健康維持と生産性向上に配慮しました。

保健室については健康教育の要となる場所になるため、エントランスホール及び教室エリアの近くに配置し、子どもたちがアクセスしやすく、健康啓発のしやすさに配慮しました。また、職員室と教室エリアの間、及びグラウンドを一望できる位置に配置することで、教員が児童生徒の様子が確認しやすいように配慮しました。

4. 保健室については健康診断・保健指導・救急処置など多様な機能が求められるため、執務コーナーを中心に休養コーナー（ベッドや長椅子）や水回りをコンパクトにゾーニングしたワンルーム空間としました。また、カウンセラー専用の相談室とは別に、個室の相談スペースを設けることで心のケア空間（健康相談を含む）としての環境を充実させました。

5. 特別教室については、以下の考え方に基づいて配置しました。

・創作エリア（工作・技術室、図画・美術室、デジタルLAB）

校舎西側の1階に配置しました。大型机を配した工作・技術室、個人机を配した図画・美術室を隣接させることで、授業内容に合わせて選択できるよう配慮しました。両教室の間には3Dプリンターなどのデジタル機器を実装したメーカースペースを設置し、創作エリアとしての連携やまつりを大切にしました。校舎の奥に配置し、離れの工房に向かうようなわくわく感も演出できるようインテリアにも工夫を凝らします。また、1階に配置することで上下階の遮音対策にも配慮しました。

・理科室

校舎西側の2階南側部分に配置し、植物や生き物の生育・観察等学習内容にも配慮し、日当たり・風通しの良い環境を確保しました。観察テラスを隣接させることで屋外環境を活用した学習も可能になります。両教室間にワークスペースを設けることで、実験器具や標本のディスプレイ、学習成果の展示や掲示ができる環境を用意しました。

・音楽室

2教室のうち、器楽利用教室は学校内外への楽器の搬入のしやすさに配慮し、1階に配置しました。隣接するランチルームと床レベル差を設けることで音楽室を舞台として活用することができます。歌唱利用教室は2階に配置し、各種イベント時に多目的ホールと一体利用できるよう配慮しました。両教室は校舎東側に配置することで、近隣住宅への騒音対策としました。

6. 集団利用するスペースについては、以下の考え方に基づいて配置しました。

・ランチルーム及び家庭科室（調理・被服）

給食調理室からの配膳のしやすさ、普通教室エリアからのアプローチ、有事の避難所機能への早変わり（避難者受け入れ・炊き出し機能他）、エディブルガーデンとの連携などの観点から、1階校舎中央付近に配置しました。ランチルームは家庭科室と近接させて地域の教育イベントや給食体験会、ビュッフェ形式給食などに活用可能な計画としました。

・多目的ホール

屋内運動場としての多用途活用のしやすさ、球技への対応（天井高の確保）、学校図書館との連携（拡張スペースとして）などの観点から、2階校舎中央付近に配置しました。更衣室及びトイレを近接させることで、ホール単独での地域開放のしやすさに配慮しました。

・未来LAB（英語教室・ICTルーム）

大画面マルチスクリーンや可動机・椅子等を設置し、外部とのオンライン通信も可能なアクティブラーニングを支えるベース空間として設えます。校舎中央付近に配置し、各学年が動線の要となる中央共用部に近接させることで、表現の場として全学年の利用を可能としました。

7. 学童保育室については、グラウンドへのアプローチのしやすさ、地域スペースの活用（図書館他）、送迎のしやすさ（駐車場からのアプローチ）、学校の顔づくりなどの観点から、校舎南側の東部分に配置しました。地域スペース（各種図書コーナー）に近接させることで多種多様な室内での活動を可能にします。詳細な設えについては、学童支援員の皆さんや関係者等と対話し検討していきます。

8. 地域スペースについては、校舎1、2階をまたぐ南側部分に配置し、正門前のまなづるガーデンを含めて学校の顔づくりに寄与するデザインとします。

1階部分は地域、教職員、子どもたちそれぞれが気軽に立ち寄れるサロンのような場所をめざしました。まなづるガーデンや軒下ひろばに対して扉を開け放てば内外一体の気持ちの良い空間に早変わりすることが可能です。

2階部分は地域の大人はもちろん、学童に隣接した立地を生かし、未就学児から中高生も使える多世代交流の居場所をめざしました。自習もはかかる眺望の良いカウンタースペース、カーペット敷きの絵本コーナー、おしゃれなテーブルやイスが並ぶカフェスペース、中央には地域コーディネーターに気軽にお話しできるカウンター、地域スペースの使い方については、今後利用者と一緒に考え、必要な設えを検討していきます。

※以上の内容については現段階のものであり、今後基本設計を進める中で一部変更の可能性があります。